

## 校名：長崎大学教育学部附属中学校

所在地：〒852-8131 長崎市文教町4番23号

電話番号：095-819-2277

記載日：平成28年5月9日

記載者：山田喜彦

記載者役職：教頭

### ■校風、おおまかな特色について

本校は、校訓「光と力と望みと」、教育目標「尊重、自主、創造」のもと、「互いを敬い、共に高め合う生徒」「自ら考え、進んで事に当たる生徒」「個性的で、創造性豊かな生徒」の育成を目指して日々の教育活動に取り組んでいる。

また、1年間を前期と後期に分ける2学期制を導入し、学校生活にゆとりを持たせ、学校行事などの充実を図っている。例えば、附中祭「春」(体育大会)、附中祭「秋」(文化祭)、卒業まで残り百日の節目となる百日祭などである。特に、附中祭「春」や附中祭「秋」は、企画から当日の運営まで生徒が主体となって取り組む伝統行事となっている。また、附中祭「秋」では、県内外の学識経験者による文化講演会や芸術鑑賞会を実施している。

全校生徒の約8割が部活動に所属し、陸上競技部、コーラス部は全国大会出場、硬式テニス部、水泳同好会は九州大会出場を果たしている。また、その他の部活動も県大会に出場するなど、活躍している。その他、全国小・中学生作文コンクールや子ども県展などにおいて、優秀な成績を収める生徒もいる。

### ■卒業生の活躍について

#### ①追跡調査について

追跡調査は実施していない。

#### ②把握の状況について

高校卒業後の進路については、進学先高等学校との情報交換会や、各高等学校が発行する学校便り等で顕著なものを把握している。本校での学びを礎に、高校進学後も学業や部活動に主体的に取り組む、難関と言われる大学に進学したり、部活動の全国大会レベルで活躍したりするなどしている。

#### ③中学校卒業後の具体的な状況

例年、卒業生の約70%が進学校と言われる県立高校へ進学している。また、将来の目標に応じて、県内外の有名私立高校へ進学する生徒が、毎年10%程度見られる。

### ■本校勤務経験者の活躍状況

#### ①追跡調査について

追跡調査は実施していない。

#### ②把握の状況について

同人会組織があり、同人各人に毎年近況報告をしてもらい、把握に努めている。

#### ③活躍状況

本校転出後は、直接または公立中学校勤務を経て、長崎県教育庁や長崎県教育センター、市町教育委員会等に勤め、教科指導や人事面等で指導的立場となる本校勤務経験者が多数いる。中には、長崎県教育委員会教育委員長、長崎県教育センター所長、長崎教育事務所所長、長崎県教育庁内の課長等に就いて、本県教育を牽引する者も輩出している。また、公立中学校での勤務においても、校長、教頭等の管理職及び、教務主任や研究主任として、各学校の教育活動を推進している。

■魅力ある、特色ある、公立学校に公開できそうな先導的取組

・研究成果の公開

研究主題「新たな価値を見いだす子どもの育成」、副主題「各教科等の本質を見据えた21世紀型の学びの追究」を掲げ、「主体性」「論理的・批判的思考力」「メタ認知」の育成に焦点を当てた研究を、附属小学校と連携して取り組んでいる。小中連携による研究は4年目を迎え、平成28年度は3か年研究の2年次となる。本校の研究は、学習指導要領の改訂を視野に入れており、これまで積み重ねた実践により、授業づくりの在り方や教科の本質を見据えた視点を地域に還元できる。



・「BEST」トレーニングの実践

過年度研究の成果として実施している「BEST」は、脳科学研究を基にし、教科内容に全員がエラーレスで取り組むことができる音読・筆記トレーニングである。これは、地域の学校でも実践されており、本校の研究成果が地域に還元された例である。昨年度から、新たな視点で「BEST」の成果を研究しており、単純処理速度の向上だけでなく、学習観への影響が示唆されている。



・学力向上を図る授業提案

長崎県教育委員会が主催する公開授業研究会において、本校職員が授業者を務め、県教育委員会が提案する視点に基づき、学力向上を図る授業を県内の先生方に提案している。授業を通して、授業づくりの視点を具体的に公立学校の先生方に提案することで、地域の先生方に還元している。

・地域の先生方が参加できる研修会の実施

各教科において、地域の先生方が参加できる研修会を実施することとしている。これまで、各教科が独自に研修会を開いてきた。本年度からは、教科間の情報の共有を図り、大学との共同開催や講師を招いての研修会など、多様な研修の場を提供する。そうすることで、特定の教員を対象とするのではなく、地域の多くの教師が参加できる研修会とする。

## ■地域における存在

- ・授業実践の成果を発信し、地域の教科教育を推進する学校

継続的に研究に取り組んでいる本校は、長崎県において、授業実践の成果を発信する学校として先導的な役割を担っている。とりわけ、本校の研究発表会や県教育委員会主催の公開授業研究会において、本校の職員が授業を公開している。特に、平成25年度から小学校と連携して取り組んでいる研究は、学習指導要領の改訂を見据えており、各教科等において、地域の学校に還元できる多くの実践がある。また、職員が地域の教科部会の世話役となり、授業研究の推進及び会の運営等を担っている。

- ・教育学部生を育成する学校

長崎大学教育学部生の教育実習校として年間2回の教育実習を実施している。

- ・地域のモデル校

学習や部活動、学校行事等、あらゆる面で地域の公立中学校と同等の教育活動を展開しており、文武両道で、生徒の可能性を伸ばす学校である。

## ■附属学校の存在意義、本校の存在意義

- ・教育実習校

教育実習で、本物の授業を参観し、理想的な授業実践を目指して試行錯誤した経験は、採用後の授業実践の価値基準となるものであることから、力のある教職員を養成するために必要である。長崎における大学設置状況を踏まえると、教育実習を通して、学生の教師としての資質・能力や教職への夢や憧れを組織だって育むことができるのは本校だけである。

- ・教育研究校

附属学校は、教育に関する国の動向を見据えるとともに、地域の実態に応じた授業を実践できる学校である。そのため、多くの公立学校は、附属学校の研究成果に期待している。長崎県において附属学校は本校しかなく、本校では、このような地域の期待に応えるべく、研究発表会等において、全国的に求められる子どもたちの姿や教育の課題を、授業実践として具体化して示している。